

The 5th Annual Meeting of the Japanese Society of Oral Care

第 5 回

日本口腔ケア学会

総会・学術大会

プログラム・抄録集

口腔ケアによる健康長寿への挑戦

期 日 ■ 平成20年 11月 15日 土 ・ 16日 日

会 場 ■ 沖縄県総合福祉センター
沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373-1

大 会 長 ■ 砂川 元 琉球大学医学部 高次機能医科学講座
顎顔面口腔機能再建学分野

副大会長 ■ 高嶺 明彦 沖縄県歯科医師会長
大嶺千枝子 沖縄県看護協会会長

The 5th Annual Meeting of the Japanese Society of Oral Care

第5回 日本口腔ケア学会 総会・学術大会

プログラム・抄録集

口腔ケアによる健康長寿への挑戦

期 日 ■ 平成20年 11月 15日(土)・16日(日)

会 場 ■ 沖縄県総合福祉センター
沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373-1

大会長 ■ 砂川 元 琉球大学医学部 高次機能医科学講座
顎顔面口腔機能再建学分野

副大会長 ■ 高嶺 明彦 沖縄県歯科医師会長
大嶺千枝子 沖縄県看護協会会長

ご 挨拶

第5回日本口腔ケア学会学術大会
大会長 砂 川 元

第5回日本口腔ケア学会学術大会を開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。

一昨年、伝統ある本学会総会・学術大会の大会長にご指名頂き、私はもとより、教室員一同にとりましても誠に光栄なものと存じ、学会役員ならびに会員の諸先生方に感謝申し上げます。

さて、本学会の指名を受けた当初は、その重責に戸惑いを感じましたが、これからの口腔ケアの重要性を鑑み、ここ沖縄をオーラルケアアイランドにするきっかけとなればとの思いと同時に、2000年に公表された厚生労働省の平均寿命順位で『沖縄県男子の平均寿命の全国ランクが4位から26位に転落した』いわゆる『26位ショック』は県民に大きな衝撃でありましたので、『口腔ケアと健康長寿』について考えてみるよい機会ではないかと考え、受諾した次第であります。そこで、本大会のテーマを“口腔ケアによる健康長寿への挑戦”とし、種々の企画をいたしました。

まず、特別講演として、須加原一博琉球大学医学部附属病院長には、「全身麻酔の周術期管理と口腔ケア」の演題でご講演して頂きます。麻酔医として長年、周術期の管理を担当してきた立場からみた、口腔ケアの役割についてのご講演です。

シンポジウムは、I.「最新口腔ケアのポイント」、II.「口腔機能向上と口腔ケア」、III.「口腔ケアが及ぼす効果」、IV.「医師の立場からの口腔ケア」、V.「歯科衛生士の立場からの口腔ケア」、VI.「健康長寿を支える口腔ケア」、VII.「健康長寿…看護師がする口腔ケアが地域を変える」、の七つのテーマを企画いたしました。口腔ケアが医療界全体で注目されている中で、各シンポジウムとも、それぞれ時宜を得たテーマであり、現在、この分野の最前線でご活躍の多職種のシンポジストにより活発な議論をして頂きたいと存じます。

県民フォーラムは、今大会のメインテーマであります「口腔ケアによる健康長寿への挑戦」の観点から“健康長寿県の復活目指して；口腔ケアからの挑戦”のテーマで行います。行政、栄養、言語、看護、医学、歯学の面から、それぞれのエキスパートである高江洲均先生（沖縄県福祉保健部保健衛生統括監）上間鐘美先生（沖縄県栄養士会）、新城みちよ先生（沖縄県言語聴覚士会長）、川満幸子先生（琉球大学医学部附属病院看護部長）、宮城 剛先生（西崎病院）、新垣敬一先生（琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科講師）、加藤進作先生（沖縄県歯科医師会理事）にご講演を賜り、口腔ケアを通して県民の健康長寿へ向けての方向性を示して下さいと思います。そして、県民一人一人が健康について考える機会になれば、フォーラムを企画したものとしてこの上ない喜びであります。

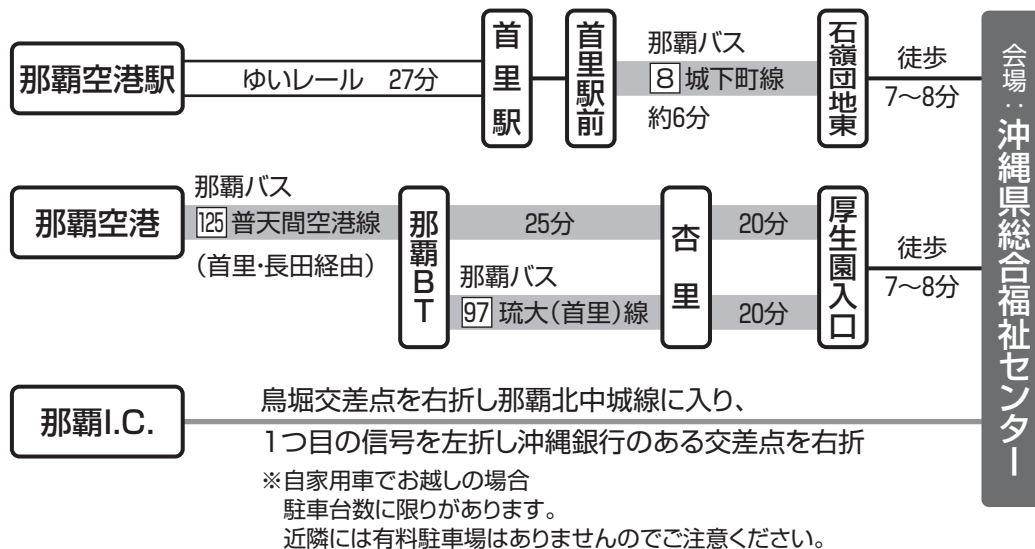
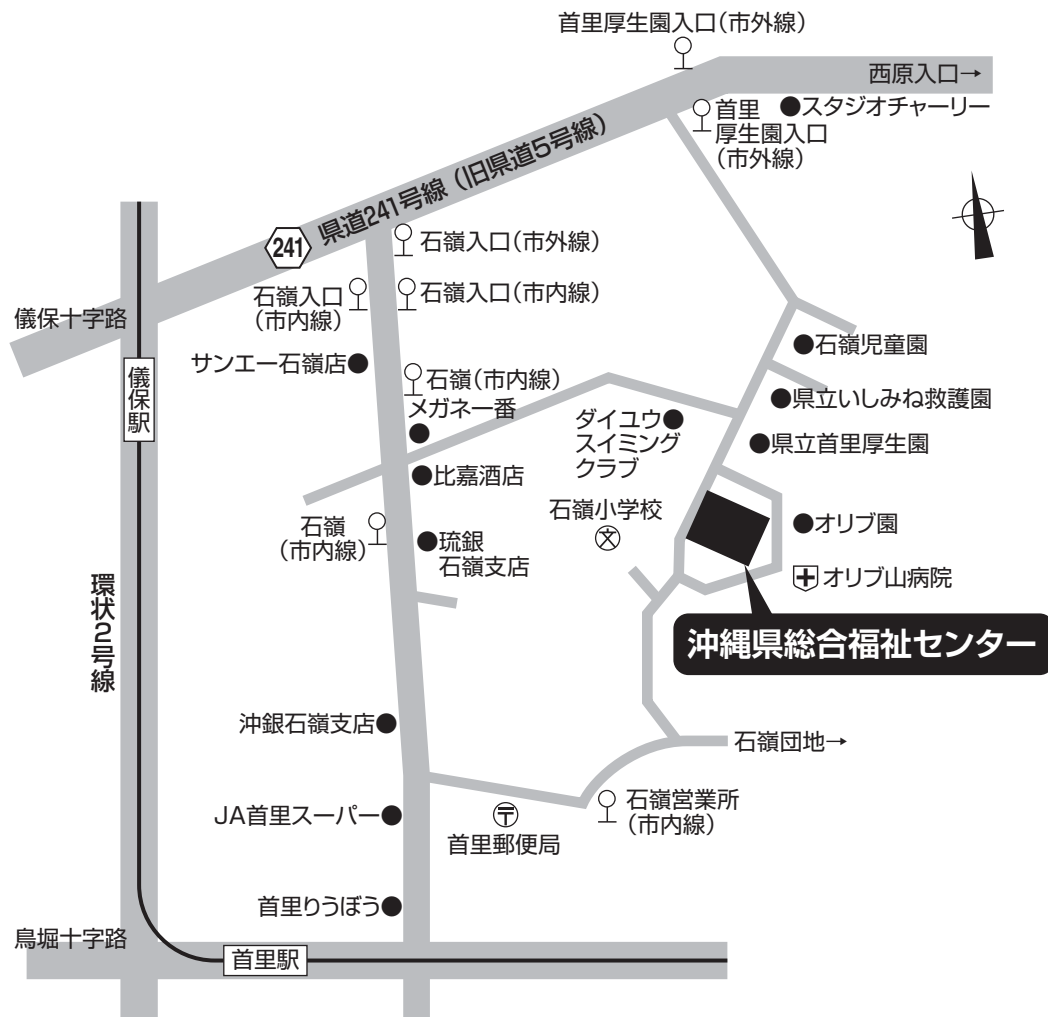
他に、推薦口演、一般口演、ポスター展示など90題と多くの発表が予定されております。是非、活発な討論による多くの成果を挙げて頂きたいと思っております。

ただ、学会場付近にはホテルなどの宿泊施設が少なく、先生方には大変ご不便をかけることになろうかと存じます。また、プログラムの編成や学会の進行など不慣れあるいは不行き届きな点でご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、教室員一同全力を挙げてよい学会にするべく最大限の努力をしておりますので、何卒ご寛容の程、よろしく願いいたします。そして大勢の先生や医療従事者のご参加を賜り、実り多き学会にして頂きますよう、ご指導、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

南国沖縄の11月は平均気温21.4℃と少し肌寒くなっておりますが、大変しのぎやすい季節であります。学会の後、世界遺産にも登録されました首里城見学や東洋一の「美海（チュラウミ）水族館」での大きなマンタやジンベエザメの遊泳などの観光、風向明媚な沖縄島のドライブやゴルフ、コバルトブルーの海などをお楽しみになり、良き思い出とともに鋭気を養ってお帰り頂きたく存じます。

最後に、本学会開催にあたり、ご支援、ご協力を賜りました関係各位に心より御礼を申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

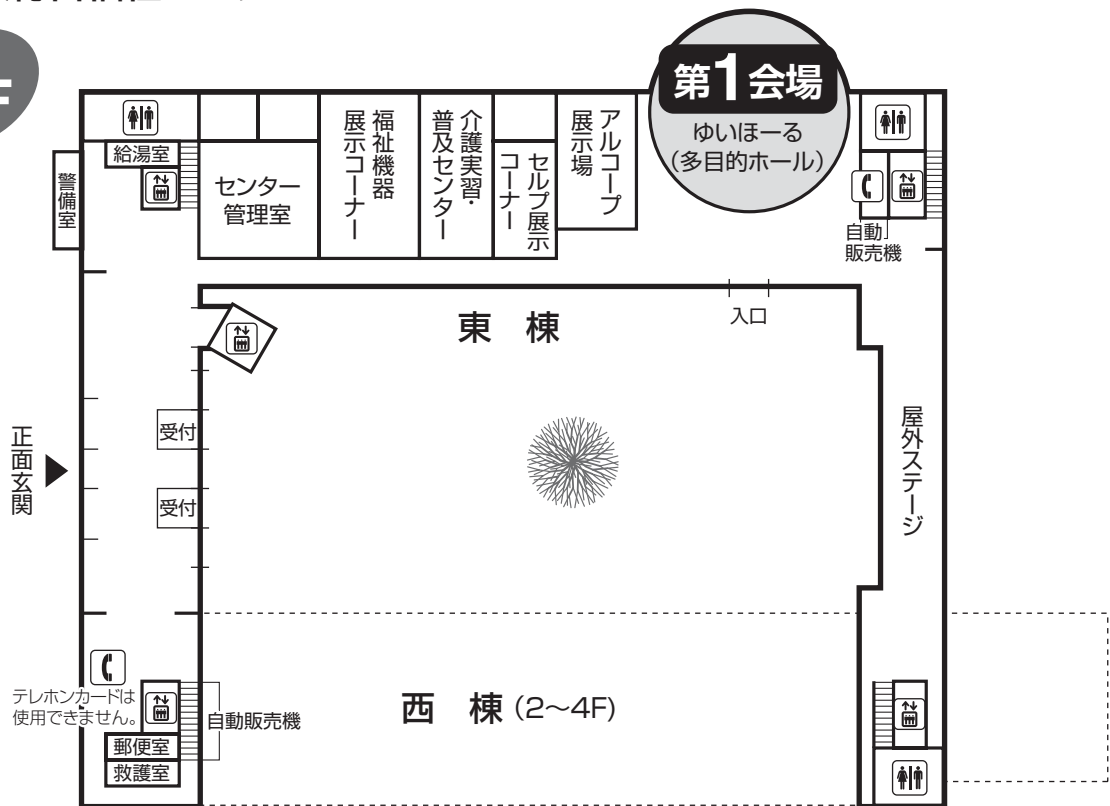
交通のご案内



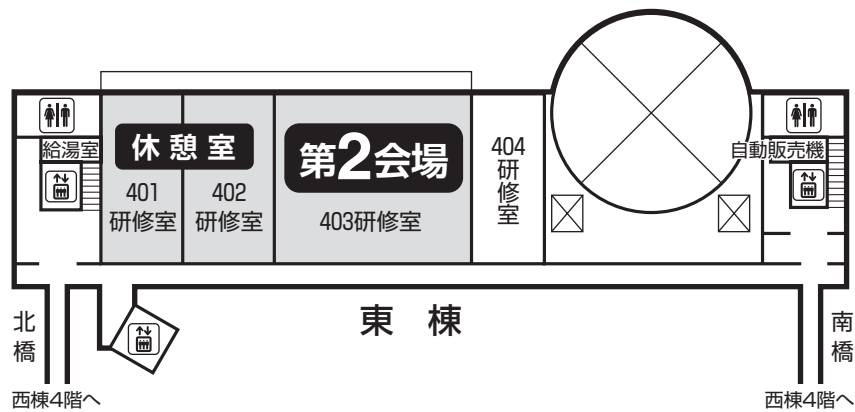
会場のご案内

沖縄県総合福祉センター（東棟）

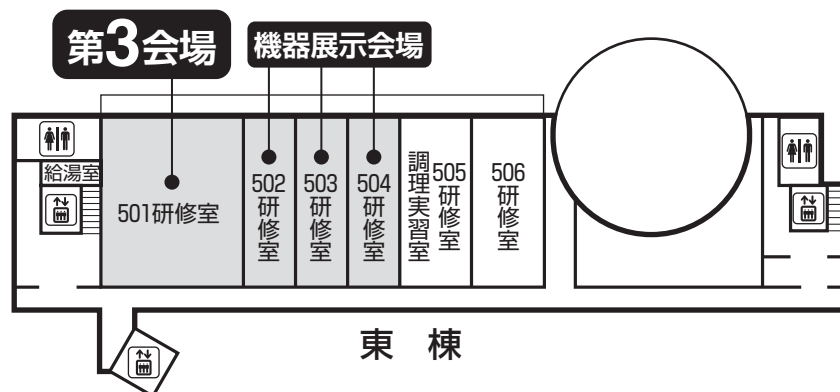
1F



4F



5F



タイムテーブル

第1日目 2008年11月15日(土)

	第1会場 ゆいぽーる	第2会場 403研修室	第3会場 501教室	第4会場 502～504教室
8:30	8:30～8:40 開会式			
	8:40～9:00 会長講演			
9:00	9:00～10:30 シンポジウムⅠ 最新口腔ケアのポイント	9:20～10:10 一般口演Ⅰ	9:00～10:00 ポスター貼付	9:00 ↓ 18:00
10:00		10:10～10:50 一般口演Ⅱ	10:00～18:00 ポスター展示	機 器 展 示
11:00	10:30～12:00 シンポジウムⅡ 口腔機能向上と口腔ケア	10:50～11:30 一般口演Ⅲ		
		11:30～11:45 推薦口演		
12:00	12:00～12:30 総 会			
	12:30～13:30 ランチョンセミナーⅠ			
13:00				
	13:30～14:30 特別講演			
14:00				
	14:30～16:00 シンポジウムⅢ 口腔ケアが及ぼす効果			
15:00				
	16:00～18:00 県民フォーラム 健康長寿県の復活を目指して ー口腔ケアからの挑戦ー			
16:00				
17:00				
18:00				

第2日目 2008年11月16日(日)

	第 1 会 場 ゆいぽーる	第 2 会 場 403研修室	第 3 会 場 501教室	第4会場 502～504教室
8:30				
9:00	9:00～10:30 シンポジウムⅣ 医師の立場からの口腔ケア	9:05～9:20 推薦口演 9:20～9:40 一般口演Ⅳ 9:40～10:10 一般口演Ⅴ 10:10～11:00 一般口演Ⅵ 11:00～11:50 一般口演Ⅶ	9:00～14:30 ポスター展示	9:00 ↓ 16:30 機 器 展 示
10:00				
11:00	10:30～12:00 シンポジウムⅤ 歯科衛生士の立場からの 口腔ケア			
12:00	12:00～13:00 ランチョンセミナーⅡ			
13:00	13:00～14:30 シンポジウムⅥ 健康長寿を支える口腔ケア			
14:00				
15:00	14:30～16:30 シンポジウムⅦ 健康長寿… 看護師がする口腔ケアが 地域を変える		14:30～15:00 ポスター撤去	
16:00				
17:00				
18:00				

座長、演者、発言者へのお願い

座長へのお願い

1. 担当セッション開始時刻の15分前までに、次座長席にご着席下さい。
2. 進行は時間厳守でお願いします。

演者へのお願い

● 口演（推薦口演、一般口演）発表者の方へ

1. 発表日時について
平成20年11月15日 ㊦ 9:20～11:54
平成20年11月16日 ㊦ 9:20～11:50
2. 会場について
第2会場（403研修室）
3. 発表方法
 - ・発表時間は推薦口演は12分（口演9分、質疑応答3分）、一般演題は10分（口演8分、質疑応答2分）です。
 - ・質疑は座長の指示に従って下さい。
 - ・発表終了時間前の1分前に青ランプ、終了時に赤ランプでお知らせしますので時間厳守でお願いします。
 - ・次演者は発表の10分前には次演者席でお待ち下さい。
4. PCによるプレゼンテーションの注意事項
 - ・発表データは全てメディア媒体（USBメモリースティックかCD-R）で提出して下さい。
 - ・発表データは以下の条件で作成したものに限りします。
OS（Windows 98以降 Windows XPまで）、アプリケーション（Windows版Power point2000以降2003年まで）、標準フォントを使用
 - ・各自で、上記の環境下での正常な作動を予めご確認下さい。
 - ・発表データ（メディア媒体）は発表予定時刻の30分前までに各会場の受付へご持参下さい。受付への提出時には演題番号、演者氏名を明示の上、受領証をお受け取り下さい。
 - ・発表後は速やかに受領証をご持参の上、各自の発表データ（メディア媒体）をお受け取り下さい。

発言者へのお願い

ご発言は、すべて座長の指示に従い、必ず討論用のマイクを用いて、所属、氏名を述べてから簡潔に行って下さい。

● ポスター展示の方へ

1. 会場

第3会場(501 教室)

2. 展示要項

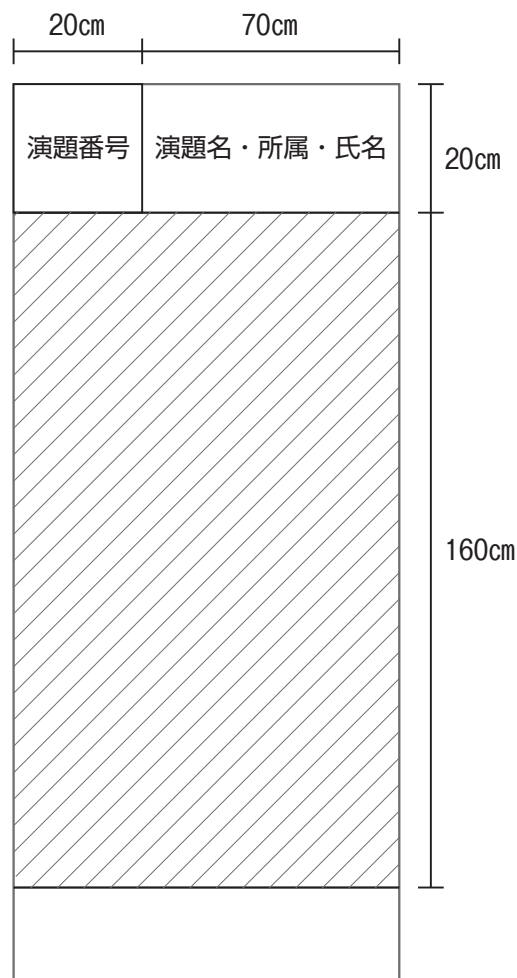
- 展示には横90cm×縦180cmのパネルを用意します。
右図の斜線の範囲内に展示して下さい。
- 演題番号(横20cm×縦20cm)は学会事務局で用意します。
- ポスター貼り付けは両面テープによる固定です。
テープは用意致します。なお、画鋏は使用できませんのでご注意ください。

3. 貼付と撤去

- 貼付時間 11月15日(土) 9:00～10:00
- 撤去時間 11月16日(日) 14:30～15:00
- 時間内に撤去されない場合は、主催者側にて撤去処分致しますので、ご了承下さい。

4. 討論時間

特に設定はありません。



問い合わせ先

会期前 〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207

琉球大学医学部高次機能医科学講座顎顔面口腔機能再建学分野内
第5回日本口腔ケア学会学術大会事務局

準備委員長：新崎 章

事務局担当：天願俊泉、桑江やす子

TEL:098-895-1192 FAX:098-895-1431

E-mail: dental@jim.u-ryukyu.ac.jp

会期中 〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1

沖縄県総合福祉センター内

学術大会本部：TEL:098-882-5811(代表) FAX:098-882-5820

学術大会参加の方へ

1. 参加登録受付

- 1) 登録は総合受付で15日(土)は8:20から行います。
- 2) 事前登録がお済みでない方は、当日会費をお支払いの上、参加証ならびに抄録集をお受け取り下さい。なお、参加証下部は領収書となっています。

学術大会参加費(当日会費)

学 会 員	歯科医師・医師	10,000 円
	コメディカル	6,000 円
	学生	無料
非学会員	歯科医師・医師	15,000 円
	コメディカル	11,000 円
	学生	3,000 円

- 3) 事前登録された方は、お送りした参加証、抄録集をご持参下さい。

2. 会 場

- 1) 第1会場(ゆいほーる)：開会式、総会、会長講演、特別講演、県民フォーラム、シンポジウム(I～VII)、ランチョンセミナー
- 2) 第2会場(403研修室)：推薦口演、一般口演
- 3) 第3会場(501教室)：ポスター展示
- 4) 第4会場(502～504教室)：機器展示

3. 総 会 総会

総会は第1日目(11月15日(土))午後12時から第1会場で行います。

4. クローク 総合受付

近くに設置いたします。

5. 掲示板・伝言板

総合受付付近に用意いたします。ご自由にご利用下さい。

6. 昼 食 ランチョンセミナー

では昼食を用意致します。なお、会場周辺では食事ができる施設が限られています。

7. 機器展示

11月15日(土)、16日(日)の両日とも午前9時から502～504教室で行います。

8. 書籍展示

11月15日(土)、16日(日)の両日とも午前9時から402研修室で行います。

9. 役員会

理事会、評議員会は西棟4階の第7会議室で11月14日(金)午後14:45～16:45に開催されます。
(理事会：14:45～16:45、評議員会：17:00～18:00)

プログラム 11月15日(土)

第1会場(ゆいぽーる)

会長講演 8:40～9:00

座長：今井 裕 獨協医科大学口腔外科学講座 教授

無限の可能性をもったこれからの口腔ケアを考える

砂川 元 琉球大学医学部高次機能医科学講座顎顔面口腔機能再建学分野 教授

特別講演 13:30～14:30

座長：砂川 元 琉球大学医学部高次機能医科学講座顎顔面口腔機能再建学分野 教授

周術期全身管理と口腔ケア

須加原一博 琉球大学医学部附属病院院長(琉球大学医学部生体制御医科学講座麻酔科学分野)

県民フォーラム 16:00～18:00

オーガナイザー：砂川 元 琉球大学医学部高次機能医科学講座顎顔面口腔機能再建学分野 教授
高嶺 明彦 沖縄県歯科医師会会長

[健康長寿県の復活を目指して－口腔ケアからの挑戦－]

- | | | | |
|----|------------|-------|--------------------------------|
| 01 | 行政の立場から | 高江洲 均 | 沖縄県福祉保健部 |
| 02 | 食介護の立場から | 上間 鈴美 | 沖縄県栄養士会 |
| 03 | 言語聴覚士の立場から | 新城みちよ | 沖縄県言語聴覚士会 |
| 04 | 看護師の立場から | 川満 幸子 | 琉球大学医学部附属病院 看護部 |
| 05 | 慢性期病院の立場から | 宮城 剛 | 医療法人以和貴会 西崎病院 |
| 06 | 急性期病院の立場から | 新垣 敬一 | 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科
障害者歯科センター |
| 07 | 歯科医師会の立場から | 加藤 進作 | 沖縄県歯科医師会 |

シンポジウム I 9:00～10:30

モデレーター：夏目 長門 愛知学院大学 教授

[最新口腔ケアのポイント]

- | | | | |
|------|----------------|-------|----------------------------|
| SI-1 | 要介護者への口腔ケア | 鈴木 俊夫 | 日本口腔ケア学会 理事長 |
| SI-2 | 摂食・嚥下に関わる口腔ケア | 舘村 卓 | 大阪大学大学院歯学研究科
高次脳口腔機能学講座 |
| SI-3 | 癌の化学療法後の口腔ケア | 大田洋二郎 | 静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科 |
| SI-4 | 出血傾向のある患者の口腔ケア | 岸本 裕充 | 兵庫医科大学病院歯科口腔外科 |

〔 口腔機能向上と口腔ケア 〕

- SII-1** 障害児への取り組み 濱野 淑子 兵庫県立阪神特別支援学校
- SII-2** 入院中より在宅まで継続した口腔ケア 小池 正樹 (医)ちゅうざん会 ちゅうざん病院
- SII-3** 言語聴覚士養成の立場から 新谷 晃代 沖縄リハビリテーション学院 講師
- SII-4** 高齢者の食事とコミュニケーションの援助を通して
症例から学んだこと・実践したこと
座間味幸枝 翔南病院 言語聴覚士

ランチョンセミナー I 12:30～13:30

座長：砂川 元 琉球大学医学部高次機能医科学講座顎顔面口腔機能再建学分野 教授

口腔ケア～病院における口腔管理の視点から～

大西 徹郎 市立池田病院歯科口腔外科 主任部長

シンポジウム III 14:30～16:00

モデレーター：喜屋武 満 沖縄ラオス口唇口蓋裂患者支援センター会長

〔 口腔ケアが及ぼす効果 〕

- SIII-1** 他職種との連携による口腔ケアの現況 上田 敏雄 上田歯科医院
- SIII-2** 沖縄県内における訪問歯科医療の現状 玉城 吉康 沖縄県歯科医師会
- SIII-3** 訪問歯科診療普及への沖縄県歯科医師会の取り組み
津嘉山 一 沖縄県歯科医師会 地域歯科保健委員

第2会場(403研修室)

I 高齢者・介護 9:20～10:10

座長：倉科 憲治 信州大学医学部歯科口腔外科教授

0-03 通所介護事業利用者の口腔機能向上の個別ケアの必要性

- 1) 新潟県立看護大学 看護学部、2) 聖マリア学院大学 看護学部、
- 3) 久留米大学大学院医学研究科 博士課程バイオ統計学、
- 4) 社会福祉法人福成会 デイサービスセンターメゾンマリア

○原 等子¹⁾、堤 千代^{2,3)}、下川 雅文⁴⁾、宮林 郁子²⁾

抄 録

会 長 講 演
特 別 講 演
県 民 フ ォ ー ラ ム
シンポジウムⅠ～Ⅶ
ランチオンセミナーⅠ～Ⅱ

無限の可能性をもったこれからの口腔ケアを考える

砂川 元 琉球大学医学部高次機能医科学講座顎顔面口腔機能再建学分野

かつて、口腔ケアの認識が高くなかった時代の医療従事者における口腔ケアの認識は、単に口腔を清潔に保つことや身だしなみの域を超えず、口腔ケアにより各種身体機能の維持回復まで可能であるという認識はなく、『口腔の疾病予防、健康保持・増進、リハビリテーションにより QOL の向上を目指した科学であり、技術である』と定義される“広義の口腔ケア”が医療の現場で深く浸透されてはいなかった。

しかし、近年、口腔ケアは高齢者の誤嚥性肺炎の予防だけではなく、術前の口腔ケアにより術後肺炎の減少や食道癌術後患者の吻合部感染の減少により、術後の抗生物質の投与期間と入院期間の短縮など包括医療制度の中で病院経営においても大きく寄与している事が報告されている。

また、認知症とならんで現代の高齢社会の深刻な問題の一つである摂食・嚥下障害は、生活の質を著しく低下させるばかりでなく、脱水や低栄養状態に伴う免疫力の低下や生きる意欲の減退に繋がる事が知られている。このような患者に対しても口腔リハビリテーション(機能的口腔ケア)が重要な役割を果たす事が明らかになってきている。

さらに、脳血管障害を発症した患者に、症状が固定した後に口腔ケアを行うのではなく、障害発生の急性期から機能的口腔ケアを適応することにより、摂食・嚥下に関わる筋肉の廃用萎縮防止に繋がる事が認識されつつある。このように口腔ケアの重要性は歯科界にとどまらず医療界全体で認識されつつあるのが現状である。

当科においても口腔ケアの有用性を考慮し、これまで1) 周術期患者の口腔清掃(器質的口腔ケア)により口腔内の細菌数を減少させ、術後合併症を防止し、早期に病態からの回復を図る、2) 機能的口腔ケアにより捕食、食塊形成および移送、嚥下機能の回復を図る、3) 経口摂取を可能にし、免疫能を高める事を目的として口腔ケアを行ってきた。さらに、地域の回復期病院や介護施設からの要望でこれらの病院や施設で高齢者や寝たきりの患者や入所者に対して、i) 機能的口腔ケアによる誤嚥性肺炎の防止と ii) 機能的口腔ケアによる摂食・嚥下機能の回復を目指すことを目的に口腔ケアを施行している。

本講演では急性期病院の口腔ケアの役割について当科での口腔ケアの現状を中心に報告し、慢性期病院の口腔ケアの役割については当科が口腔ケアを実施している慢性期病院や介護施設における口腔ケアの現状について述べる。これらの急性期病院と慢性期病院の口腔ケアの現状をふまえて、今後の口腔ケアの方向性について考察し、今後の口腔ケアの無限の可能性について講演する予定である。

周術期全身管理と口腔ケア

須加原一博 琉球大学医学部附属病院長
(琉球大学医学部生体制御医科学講座麻酔科学分野)

近年、高齢化社会に伴い全国の医療機関で栄養サポートチーム（NST）などが設置され、栄養管理など患者の QOL 向上への関心が高まるとともに、在院日数短縮など病院経営面の波及効果も期待され、医療の質を表す病院評価指標の一つとなってきた。手術に際しても、周術期の全身管理における口腔ケアの重要性が注目されている。特に、全身麻酔患者や人工呼吸中における肺感染症の抑制効果にはエビデンスが集積されてきており、積極的な取り組みが推奨されている（米国疾病管理予防センター CDC ガイドライン勧告）。口腔ケアについて、麻酔科、集中治療領域における周術期の役割について呼吸器感染症抑制効果を中心に概説するが、詳細はシンポジウムで教室員から発表されるだろう。

口腔や上気道の特徴は、外気と直接接触することであり、感染防御機構のフロントラインを形成するとともに、全身への栄養摂取口でもある。1日10,000～15,000ℓもの空気が鼻孔より吸い込まれ気管・気管支を通過して肺に送られている。吸気中には細菌、花粉、粉塵、煙等の異物が、また食物にも多くの細菌が混じっており、口腔や上気道には生体防御機構が不可欠である。従って上気道における水・電解質や粘液の輸送機能は、粘膜保護の上からはもちろん常在菌をはじめとする口腔内細菌の恒常性維持にも重要な役割を果たしていると考えられる。口腔内防御機構や輸送機能の役割について上気道粘膜を含め述べてみたい。口腔内では防御因子としては、唾液成分や口腔内好中球が、鼻腔などでは粘液線毛運動、神経反射による異物排泄・除去、局所免疫などが重要な役割をしている。これらの防御反応が崩れると、口内炎、歯肉炎や歯周病、副鼻腔炎などが起こり、下気道病変の誘因となる。さらに、これらの生体防御機構は、高齢になるに従い機能低下を来すと考えられ、日頃の口腔ケアが大切である。人工呼吸器関連肺炎（ventilator-associated pneumonia）などからも、全身麻酔の周術期の口腔ケアにより手術患者の予後が左右されうる。手術室に口腔ケア相談窓口を設置した大学もある。今後、内科、外科に限らず、病院として専門的口腔ケアの診療体制を整備することの必要性を強調したい。

01 行政の立場から

高江洲 均 沖縄県福祉保健部保健衛生統括監

「健康長寿県復活を目指して：口腔ケアからの挑戦」として、県行政からは「健康おきなわ21・歯の健康」を紹介します。

県では昨年度、長寿世界一復活にむけた健康増進計画として「健康おきなわ21」を策定いたしました。平成20年度を初年度として24年度までを前期5年、25年度～29年度を後期5年とした10年計画です。その一分野として「歯の健康」があります。現状と課題、対策の方向性、関係機関・団体の具体的な取組を明記し、目標値をさだめ、指標化して健康づくり活動を推進しています。

1. 県民の「歯の健康」の現状と課題

- ① 幼児・児童・生徒のむし歯は年々よくなっていますが、全国ワーストレベル。
- ② 成人の歯周病は増加しており、重度の人が全国に比べ多い。
- ③ 60歳で24本以上ある人は40%（5人に1人）、80歳で20本以上の人は16%（20人に3人）どちらも全国より少ない。

2. 県民の「歯の健康」を守るための主な対策（ライフステージに応じた対策）

- ① むし歯予防効果の高い「フッ化物応用」を取り入れた取組の拡大
（現状値：1歳6ヶ月健診でフッ素塗布実施市町村：30
保育所、幼稚園、小中学校でのフッ化物洗口実施：51）
- ② 歯周病予防のための「歯間ブラシ・デンタルフロス等の使用」と「歯石除去等定期管理の定着」→セルフケアとプロフェッショナルケア
（現状値：歯間ブラシ等の使用：16.8%（40歳） 定期的管理：22.9%（60歳））
- ③ 高齢者の歯の喪失防止と口腔ケア・摂食・嚥下に関する普及啓発

3. 「歯の健康」現状値と目標値（主な物）

	現 状	前期目標	後期目標
①-1 3歳児でむし歯がある割合を減少	43.5%	30%	25%
①-2 12歳の一人平均のむし歯数の減少	3.28本	2本	1.5本（10年で半減）
② 50歳で進行した歯周病の減少	44.4%	40%	35%

また、県民に日常生活に取り入れて欲しい行動目標として「チャーガンジューおきなわ 9か条」を決定し、「歯の健康」に関しては「お：お口の健康3点セット 歯ブラシ・フッ素・フロス」をスローガンとしています。

歯を失う原因の9割はむし歯と歯周病です。多くの県民が口腔ケアを含むむし歯と歯周病予防対策を日常生活の中で実践していくことが、将来の6024、8020へと繋がります。歯・口が健康で、しっかり噛み、美味しく食べることが、健康で質の高い生活の実現となり、つまり沖縄県の健康長寿の復活に大きくかかわっていくと考えます。



02

食介護の立場から 「口から、おいしく食べていただくために」

上間 鈴美 沖縄県栄養士会 管理栄養士

1. 取り組んだ課題

食事は、利用者に対する最も重要なサービスです。食事を丁寧に作りおいしく食べていただく事は、利用者のいきいきとした生活に欠かせません。しかし、利用者の高齢化・重度化による咀嚼・嚥下機能の低下や食事摂取量の減少など、介護現場の課題は山積みしており、真に命を守る栄養ケア・マネジメントの在り方が問われています。

今回、「口からおいしく食べる事の取り組み」をチームケアにより低栄養予防の改善を行った。

2. 具体的な取り組み

- ① 栄養ケア・マネジメント …………… 多職種協働体制
- ② 口腔ケア、のどのアイスマッサージ …… 歯科検診、作業療法士
- ③ 介護食の導入 …………… 安全でおいしく食べる食形態の改善

3. 取り組みの成果と評価

- ① 栄養スクリーニングにおいて、平成20年1月と7月比較

	H20年1月(%)	7月(%)
高リスク	27人(24.5)	18人(16.4)
中リスク	66人(60.0)	51人(46.3)
低リスク	17人(15.5)	41人(37.3)

1月高リスク24.5%から7月16.4%に減り、低リスクが15.5%より37.3%へ増加し栄養改善ができた。

- ② 経管栄養予備群 8人……………経口維持継続
- ③ ミキサー食 → 介護食へ …… 摂取量の増加
食事介助時間の短縮により介護の手間が省けた。

さらに、低栄養状態の予防と改善に繋がった。

上間 鈴美プロフィール

S56.3月 聖徳栄養短期大学(現 東京聖栄大学) 食物栄養学科 卒業
S56.12月 社会福祉法人 沖縄コロニー 入社
H17.6月 // 重度身体障害者授産施設勤務
H17.7月 // 特別養護老人ホーム ありあけの里勤務

SI-1 要介護者への口腔ケア ～他職種連携で嚥食障害の改善を目指して～

鈴木 俊夫 日本口腔ケア学会理事長・名古屋市 鈴木歯科医院 院長

高齢社会がすすみ、厚生労働省の資料によると、平成19年3月では、介護保険制度における第1号被保険者数は、約1,450万人(内75歳以上1,226万人)。要介護(要支援)認定者数は、440万人。内、居宅介護サービス利用者が351万人。施設介護サービス利用者が111万人と報告されており、今後、さらに要介護者は増加の一途をたどると推測されている。

国は、要介護状態へ陥る前に、介護予防給付サービスとしての、デイケア・デイサービスなどを、また加算として、運動機能向上、栄養改善、口腔機能向上を創設し、各地で推進している。

他方、患者の医療に対する要望も多様化し、それに伴いモンスターペイシェントなども出現し、多岐に及ぶトラブルも発生している。これは、外来通院のみならず、訪問診療を受けている患者の場合でも例外ではなく、患者本人はじめ介護者からの過度な期待や要望、さらには経済面など、その対応がかなり難しいことも少なくない。

円滑に要介護者への訪問診療を進めるには、他の職種との連携が不可欠となってくる。また、診療の視点からみると、診療と口腔ケアと栄養が同時進行をしていかないと十分な成果をあげることはできない。

歯科治療や口腔ケアの目的は、嚥食障害の改善、誤嚥性肺炎の予防、口臭の除去、ターミナルケアなどで、それに向け、歯科関係者は、医師、介護支援専門員、看護師、など、他の職種と連携を図り診療を進めることになる。実際の現場では、看護職、介護職、歯科衛生士などが中心となり、歯科治療と並行して口腔ケアを進めているが、一部の施設では、平成17年度に、栄養ケアマネジメントが、介護報酬に加えられたことにより、管理栄養士や介護支援専門員も口腔ケアに参加する機会が増えた。

そこで、口腔内の現状、トラブル、口腔ケア、ターミナルケアなどを、医師・歯科医師(病院の歯科口腔外科)はじめ、他の職種とどのように連携し、口腔ケアを推進しているのか紹介し、よりよい口腔ケアを進めるにはどのようにしたら充実できるのかを、皆さんと共に考えてみたい。

SI-2 摂食嚥下に関わる口腔ケア

館村 卓 大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能学講座

介護保険の改訂で「口腔機能の向上」が介護予防の6つの目標の一つとされ、口腔ケアは新予防給付の対象となった。「口腔機能の向上」以外の5つの目標、1) 運動器の機能向上、2) 栄養改善、3) 閉じこもり予防・支援、4) 認知症予防・支援、5) うつ予防・支援は、日常生活を送る身体活動への影響の予防(1、2)や明らかな病的状態への対応(3、4、5)であるために、予防・支援が必要であることは容易に理解できる。しかしながら、「食べる」に代表される「口腔機能」は、関連する器官の器質障害や感覚・運動神経の障害によって重篤な状態に陥らない限り、全体的には要介護状態にあっても口腔機能は支援が必要であるように見えない場合が多いため、口腔機能の向上のための取り組みは低調であるのが実情である。

老健施設を利用する有病高齢者(平成16年)は、256,809人(3,131施設)、認知症を持つ人の割合は85%、その内の45.5%が脳血管性認知症である。すなわち、多くの老健施設利用者は、認知症と脳血管障害に伴う運動・感覚機能の障害を持っており、当然、口腔機能障害も有すると考えられる。一方、3,391(平成18年)ある老健施設の施設長が歯科医師であるのは2施設程度であることから、ほとんどの利用者は、口腔清掃・口腔ケアを含む歯科医療の網の目から脱落していると思われる。

これらの施設では、歯科疾患により食べる機能が低下した場合、口腔機能向上のための口腔ケアが行われることは少なく、摂取する食物の texture を低下させることで対応していることが多い。すなわち、食物を咀嚼する必要がなくなり、刺激性唾液が減少して自浄性が低下し、さらに歯科疾患は重症化して拔牙が繰り返されて口腔容積は低下し、咀嚼機能は廃用性変化に陥るとというのが実情である。

口腔ケアが口腔機能の向上に有効であると考えられるようになった背景は、定期的に質の高い口腔清掃が行われた人において誤嚥性肺炎の発症が予防されたことで、経口摂取が制限されることなく継続され、咀嚼嚥下機能に関わる臓器の廃用性変化が防止されたためではないかと愚案している。口腔機能も全身の運動機能と同様の性質を有すると考えるならば、口腔機能の向上のためには、生理学にもとづく運動療法の考え方が必要であると思われる。すなわち、口腔清掃の副産物としてではなく、個人ごとの障害像を評価し、短期・長期の目標を設定し、生理学に基づいた訓練プログラムを立て、定期的に outcome を評価することで、予知性の高い摂食嚥下機能の向上のための積極的な口腔ケアが可能になるのではないかと考える。

今回のシンポジウムでは、脳外科手術後8年間経口摂取が行われていなかった遷延性意識障害例に再び経口摂取できるまで支援した事例を通じて、演者らの口腔ケアプログラムの概念について述べたい。

第6回日本口腔ケア学会総会学術大会 のご案内

1. 会 期：2009年11月20日(金) 総会、学術大会
11月21日(土) 学術大会
2. 会 場：栃木県総合文化センター
〒320-8530 栃木県宇都宮市本町1-8
3. 大 会 長：今井 裕 獨協医科大学医学部口腔外科学講座 教授
副 会 長：佐山 静江 獨協医科大学病院看護部 部長
準備委員長：川又 均
4. 事 務 局：獨協医科大学医学部口腔外科学講座
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880
TEL：0282-87-2169
E-mail：oralsug@dokkyomed.ac.jp
担当者：平野
5. テーマ(仮)：〔口腔ケアと連携医療の関わり〕

協賛団体一覧

(順不同)

沖縄県歯科医師会

琉球大学医学部歯科口腔外科同門会

沖縄県看護協会

おきなわ口腔ケア研究会

沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター

出展・展示企業一覧

(順不同)

和光堂 株式会社

日本化薬 株式会社

ライオン歯科材 株式会社

竹井機器工業 株式会社

川本産業 株式会社

株式会社 VIP グローバル

ティーアンドケー 株式会社

昭和薬品化工 株式会社

ウェルテック 株式会社

サンデンタル 株式会社

井上アタッチメント 株式会社

株式会社 クリニコ

持田製薬 株式会社

株式会社 ピー・エム・ジェー

有限会社 月桃茶屋

ネスレニュートリション 株式会社

株式会社 東京技研

生化学バイオビジネス 株式会社

EN 大塚製薬 株式会社

株式会社 白鵬

ニプロ 株式会社

広告掲載企業団体一覧

(順不同)

塩野義製薬 株式会社

株式会社 沖縄歯科機材

株式会社 モリタ

昭和薬品化工 株式会社

株式会社 ルピナス

株式会社 白鵬

株式会社 永末書店

ネスレニュートリション 株式会社

医歯薬出版 株式会社

ウェルテック 株式会社

■ 編集後記 ■

- 第5回日本口腔ケア学会学術大会にご参加の学会会員の皆様をはじめ貴重なご講演で学術大会を盛り上げていただきます非学会員の皆様ならびに賛助の皆様にあつく御礼申し上げます。
- 会場は沖縄県民の社会福祉に対する理解を深め、福祉活動を促進するための総合的な拠点施設ではありますが、交通の便でいささかご不自由をかけるかと懸念されます。バリアフリーのオープン空間で、お互いを認め支えあう「ゆいまーる」の精神を育む社会福祉活動の拠点の地で、沖縄がオーラルケア アイランドになるような熱い議論が交わされることを期待しています。
- 学会終了後は沖縄の美しい自然をはじめとして沖縄の歴史や文化を肌で感じてもらい学会のすばらしい思い出にさせていただきたいと思います。(新崎 章)

第5回 日本口腔ケア学会総会 学術大会プログラム・抄録集

発行者：第5回 日本口腔ケア学会総会・学術大会 大会長 砂川 元

事務局：〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207

琉球大学医学部 高次機能医科学 顎顔面口腔機能再建学分野

事務局長：新崎 章

TEL：098-895-1192 FAX：098-895-1431

印刷：Next COMPANY **Secand** 株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025